「おじいちゃんの手」

長者小　三年　市原利仁

ぼくのおじいちゃんの手は、ごつごつしていてゆびはとても大きくて、しわやつめにはよごれがしみこんでいて、まるで、きょうりゅうの手みたいです。でも、ぼくたちの食べるお米を作ってくれていると思うと、なんでも作ることのできるまほうの手なのかと思ったりもします。

ぼくのおじいちゃんはおいしいお米をたくさん作っています。あとぼくの大すきなおもちになるお米も作っています。いつもお正月になるとおもちつきをおじいちゃん、そしてひいおばあちゃんといっしょにやっています。

ひいおばあちゃんの手もとても大きくてごつごつしています。つきたてのあつあつおもちをひょいと持ち上げ、パッと三つに分けてしまいます。ぼくも一どちょうせんしてみたけど、とてもあつくてぜんぜんさわれませんでした。

「なんでおじいちゃんの手やひいおばあちゃんの手はそんなにごつごつしているんだろう。」

ぼくはふしぎに思いお母さんに聞いてみた事があります。そして分かりました。ぼくたちがいつもたべているお米を作るのにとてもがんばっている事を。そしていっしょうけんめい作ってくれている事を。

そんなごつごつした大きい手のおじいちゃん達はいつもおいしいしおむすびを作ってくれます。ふっくらつやつやしていて味はしかつけてないのにとってもおいしいです。

「おじいちゃんーいつもおいしいお米を作ってくれてありがとう。」

こんどはぼくがおじいちゃんにおいしいしおむすびを作ってあげようと思います。